

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 19 日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22720155

研究課題名（和文） チベット・ビルマ語派ルイ語群の比較言語学的研究

研究課題名（英文） A comparative linguistic study of the Luish group of Tibeto-Burman languages

研究代表者

藤原 敬介（HUZIWARA Keisuke）

京都大学・大学院文学研究科・教務補佐員

研究者番号：00569105

研究成果の概要（和文）：チベット・ビルマ語派ルイ語群に属する言語のうち、ビルマではなされるカドゥー語とガナン語を中心に、基礎語彙調査を中心とした記述言語学的研究をおこなった。収集した資料をもとに、両言語の音声について、特に声調を中心に共時的・通時的体系をあきらかにした。ルイ語群に属する諸言語（カドゥー語、ガナン語、チャック語、アンドロ語、センマイ語）を比較し、歴史的にさかのぼると推定されるルイ祖語の形式を提示した。

研究成果の概要（英文）：Descriptive linguistic fieldworks on the Luish languages, especially on Kadu and Ganan, have been carried out several times in Burma, focusing on their basic vocabularies. As a result, the phonological system of Kadu and Ganan, especially its tone system, was made clear both from the synchronic and diachronic point of view. A historical and comparative phonology of Luish languages (Cal, Kadu, Ganan, Andro and Sengmai) was studied and more than 300 Proto-Luish forms have been reconstructed.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	120,0000	36,0000	156,0000
2011年度	90,0000	27,0000	117,0000
2012年度	100,0000	30,0000	130,0000
年度			
年度			
総計	310,0000	93,0000	403,0000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学

キーワード：カドゥー語、ガナン語、ルイ語群、チベット・ビルマ語派、比較言語学、記述言語学、音声学、声調

## 1. 研究開始当初の背景

- (1) 代表者は、2000年からチベット・ビルマ語派（Tibeto-Burman）ルイ語群（Luish）に属するチャック語（Cak: 話者数 2000人）の研究を開始した。基礎語彙や民話資料の収集につとめ、2008年には博士論文「チャック語の

記述言語学的研究」としてまとめることができた。博士論文では、チャック語の音韻論、形態論、統語論を中心に網羅的記述をおこなった。

- (2) 代表者は、チベット・ビルマ語派ルイ語群に属するカドゥー語（Kadu:

話者数 20000 人) とガナン語 (Ganan: 話者数 7000 人) についても 2007 年から予備的な調査を開始した。

(3) その結果、カドゥー語とガナン語は、語彙のみならず、文法的にもチャック語とよく類似していることがわかってきた。たとえば移動をあらわす助動詞や、類別詞について、この三言語にのみみられ、周辺言語にはみられない特徴を発見した。

(4) ルイ語群の諸言語は話者数がすくなく、いわゆる「消滅の危機に瀕した言語」であり、言語資料の記録と保存が急務である。

## 2. 研究の目的

- (1) カドゥー語について音韻体系を把握し、1000 語規模の基礎語彙を収集する。
- (2) ガナン語について音韻体系を把握し、1000 語規模の基礎語彙を収集する。
- (3) チャック語をカドゥー語やガナン語と比較し、ルイ語群の諸言語にみられる基本的言語特徴をあきらかにする。

## 3. 研究の方法

- (1) バングラデシュでチャック語について言語学的な臨地調査を実施する。
- (2) ビルマでカドゥー語とガナン語について、言語学的な臨地調査を実施する。
- (3) 臨地調査では、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の新谷忠彦教授による、シャン文化圏（ビルマ・タイ・ラオス・中国雲南省にまたがる地域）での言語調査に重点をおいた基礎語彙調査票を主として

もちいる。

(4) 文法項目の調査については、特定の理論的枠組みに依拠することなく、さまざまな言語の記述にもちいられる基礎的な概念をもちいて、記述をおこなうようにところがける。

(5) 調査中は、調査時間のすべてを録音すると同時に、個別に発音を録音したり、民話を記録したりするなど、良質な一次資料の記録と保存につとめる。

## 4. 研究成果

(1) 基礎語彙を中心にガナン語の語彙を三千語程度収集した（ただし予定よりもおおくの語彙を収集できたため、論文としてまとめるにはもうすこし時間がかかる予定）。

(2) ガナン語の音韻体系をあきらかにした。特に高声調のあとにあらわれる中声調が変調することにより低声調が発生しているという規則と、その氣息が共時的にも通時的にも適応されている事実を、世界ではじめて解明した。

(3) ガナン語の民話を数編録音し、かきおこすことができた（ただし、整理して発表するにはさらに時間がかかる予定）。

(4) 基礎語彙を中心にカドゥー語の語彙を三千語程度収集した（ただし予定よりもおおくの語彙を収集できたため、論文としてまとめるにはもうすこし時間がかかる予定）。

(5) カドゥー語の民話を数編録音し、かきおこすことができた（ただし、整理して発表するにはさらに時間がかかる予定）。

(6) カドゥー語の音韻体系をあきらかにした。そしてガナン語と同様の声調

規則があることを解明した。さらにカドゥー語においては、中声調のあとにあらわれる低声調が変調することにより、下降調が発生しているという事実も、世界ではじめて解明した。

- (7) チベット・ビルマ語派ルイ語群の諸言語（チャック語、カドゥー語、ガナン語）にみられる音対応をあきらかにし、300語以上のルイ祖語形式を世界ではじめて再構した。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

- (1) 藤原敬介. 2013. 「ルイ祖語の再構にむけて」『京都大学言語学研究』31: 25-131. [査読あり]
- (2) 藤原敬介. 2012. 「チャック語の格とその周辺」『京都産業大学論集人文科学系列』45: 333-354. [査読あり] <http://ci.nii.ac.jp/naid/110009424258>
- (3) 藤原敬介. 2012. 「ガナン語音韻論」『大阪大学世界言語研究センター論集』7: 121-144. [査読あり] <http://ir.library.osaka-u.ac.jp/meta-bin/mt-pdetail.cgi?cd=00043481>

〔学会発表〕（計8件）

- (1) HUZIWARA Keisuke. 2012. “Notes on the origins of the low tone in Kadu and Ganan” The 45th International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics, 2012-10-26 ~ 2012-10-28（発表は2012-10-28）, Nanyang Technological University, Singapore. [審査あり]
- (2) 藤原敬介. 2012. 「カドゥー語とガナン語における疑問助詞について」日本言語学会第144回大会、2012-06-16、東京外国語大学。[審査あり]（『予稿集』 pp. 186-191）

- (3) 藤原敬介. 2011. 「カドゥー語における緊喉調について」日本言語学会第143回大会、2011-11-26、大阪大学。[審査あり]（『予稿集』 pp. 232-237）

- (4) 藤原敬介. 2010. 「ガナン語における低声調について」日本言語学会第141回大会、2010-11-27、東北大学。[審査あり]（『予稿集』 pp. 164-169）

- (5) HUZIWARA Keisuke. 2010. “Burmese loanwords in Kadu” The 9th International Burma Studies Conference, 2010-07-06~2010-07-09（発表は2010-07-07）, Université de Provence, Marseille, France. [審査あり]

〔図書〕（計3件）

- (1) G. Hyslop, S. Morey and M. W. Post (eds.) 2012. *North East Indian Linguistics Volume 4*. New Delhi: Cambridge University Press India. (HUZIWARA Keisuke, Notes on Usoi Tripura phonetics and phonology, pp. 197-215. を執筆 [査読あり])
- (2) G. Hyslop, S. Morey and M. W. Post (eds.) 2011. *North East Indian Linguistics Volume 3*. New Delhi: Cambridge University Press India. (HUZIWARA Keisuke, Nominalization and related phenomena in Marma, pp. 105-119. を執筆 [査読あり])
- (3) 戴昭铭・(美) 马提索夫主編. 2010. 『汉藏语研究四十年：第40届国际汉藏语言暨语言学会议论文集』哈尔滨：黑龙江大学出版社。(HUZIWARA Keisuke, Cak prefix, pp. 130-145. を執筆 [査読なし])

〔その他〕

ホームページ等

<http://researchmap.jp/kej/>

#### 5. 研究組織

- (1) 研究代表者

藤原 敬介 (HUZIWARA Keisuke)  
京都大学・大学院文学研究科・教務補佐員  
研究者番号： 00569105